

19 小野豊三郎の解剖学ノート

浦山 きか

北里研究所東洋医学総合研究所医史学研究部

中国近代文学の父・鲁迅(一八八一—一九三七)は、日本留学中に仙台医学専門学校に在籍していた。ここで解剖学の藤野巖九郎によって添削を受けたノートは北京の鲁迅博物館に保管されている。同級生・小野豊三郎の解剖学ノートの一部が現存していることはあまり知られていない。藤野巖九郎の授業を知る資料となることを期し、第一報を記す。

ノートは二冊、いずれも縦二一・五センチ、横一五センチのクリーム色上質紙のノート用紙を、厚紙を表紙にして紐で綴じ、その表紙中央に白い紙を貼り、一冊には「藤野権九郎 記 骨格圖 附篇 全」(骨格圖ノートと称す)、また一冊には「藤野権九郎口述 筋肉學 全」(筋肉学ノートと称す)と墨書されている。

「骨格圖ノート」には、一頁目右上に「1」、三頁目

右上に「2」と記され、見開きで一頁とわかるため、それに従う。二頁目まで発生学に関する図、三頁目には「上皮細胞」などの図が描かれ、四頁目から黒インクで書かれた骨格図である。漢数字で頁数を、次いで図の表題を示す。□は筆者の補足である。四・肩胛骨之図、五・左鎖骨ノ下側面図/右上腕骨、六・前腕骨ノ図/手骨之図、七・腕骨ノ内面、八・腕骨之外面/大腿骨之図、九・右膝蓋骨(前面/後面)/右脛骨上端ノ上面/右下腿骨下端前面/下腿骨之図、一〇・足骨之図〔右足骨格ノ外面〕/距骨之図、一一・Ossa pedis (skeleton des Fußes) /〔椎骨〕、一二・第一頸椎ノ上側面/第二頸椎ノ上側面/第三頸椎ノ右側面/第一頸椎ノ前面觀/第一頸椎ノ上面、一三・薦骨及び尾閏骨ノ前面ヲ示ス/薦骨之後面ヲ示ス、一四・第四肋骨後側/第一肋骨上面/第二肋骨上面/〔胸骨〕、一五・離放シタル脳頭蓋、一六・后頭骨外面/后頭骨内面、(一七) 蝴蝶骨上面/全後面/全前面/全側面/左側顳額骨外面、(一八) 左顳額骨内面/左々々々下面/初生児ノ左ノモノノ顳額骨上面/錐体ノ横斷、(一九)

右側顱頂骨外面／全内面／前頭骨外面／前頭骨内面、
 (二一〇) 前頭骨鼻眼窩部下面／篩骨／后面／左側面／右
 側迷路内面、(二二二) 右下鼻甲内(内面、外面)／鋤骨
 左側面／淚骨、(二二二) 右側上顎骨(外面・内面)／上
 顎骨下面／上顎骨鼻部他ノ諸骨ノ縫合、(二三三) 右口蓋
 骨後面／右口蓋骨外面／右口蓋骨内面／右口蓋骨下面、
 右顴骨(前側・右側)、(二二四) 下顎ノ右側ノ初生児ノ
 下顎骨ノ齒牙脱落シタル下顎骨、(二二五) 舌骨上面之
 図ノ初生児ノ頭蓋側面ノ初生児ノ頭蓋上面、(二二六) 頭
 蓋底内面ノ頭蓋底外面、(二二七) 成年男子ノ硬口蓋ヲ示
 スノ鼻中隔(右鼻腔矢状断)ノ右鼻腔側壁、(二二八) 右
 眼窩ノ右眼窩内壁、(二二九) 下顱顴骨内壁(顴骨弓裁
 除)

一四頁以降の図は石川喜直『人体解剖学』第一巻・
 骨学所収の図に酷似している。同書は藤野が参考書と
 して挙げたもので、ノートとともに明治三十六年第一
 版のそれが保存されている。
 「筋肉学ノート」は見開きで三十七頁プラス一頁、一
 部彩色された図と文章から成る。

一頁目から通論、三頁目から各論に入る。書式はア
 ルファベット大文字で大綱を示し、下位分類を小文字、
 洋数字、イロハで細分するのを原則とするが、外れる
 部分もある。漢数字は頁数である。

三・肩胛諸筋、五・上腕筋、六・前腕諸筋、一一・
 手ノ筋、一三・下肢筋ノ腕背筋ノ内轉股筋類、一八・
 下脚ノ筋、二一・足ノ筋ノ側背筋ノ足蹠筋、二三・軀
 管筋、二六・後頭骨脊椎筋、二七・頭筋、三〇・頸筋、
 三三・胸筋、三四・腹筋と記され、三七頁以降は、鼠
 蹊管や「左卵巣ノ后面」の図である。石川『人体解剖
 学』よりの引用と思じき図は数点に止まる。文章は同
 書のものとは異なり、概説的な部分が多くなっている。
 このノートから、藤野巖九郎の解剖学のあり方を垣
 間見ることが出来ると言えよう。

※報告に際しては、小野氏のご遺族と日中友好協会
 宮城県連合会のご好意によった。